

Intake Reading を用いたライティング指導について

千葉県立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇 (外国語)

1 研究の背景と目的

本校では、現行の学習指導要領が実施される以前より、授業のほとんどが英語で行われてきており、ALT との TT も多いことから、一定の成果が見られる。例えば教員の英語での指示に慣れている、生徒が英語で発話することへの抵抗感が少ない等である。この研究の1年目に私が担当していたコミュニケーション英語 I では、生徒がある程度のまとまった文章の内容からキーワードを拾い出し、そこから **retelling** や **summary writing** をするという指導を行ってきた。しかし、キーワードを拾うところまでは良いが、それを用いて生徒が作成する文が英語として伝わりにくいといった問題が生じてきた。「間違ってもいいから積極的に話そう(書こう)」という姿勢、「コミュニケーションな授業を」という意識だけだと、日本人の教員や日本人の生徒に慣れた ALT にはなんとか伝わっても、一般の英語話者には伝わらない可能性のある英文が数多く生まれてきたのである。実際に授業で生徒が作った文を次に示す。

My family is father, mother, brother and me.

My favorite food is gyoza and Tonkatsu.

I've been read the books for 10 years.

I hobbys is play the piano.

もちろん、完璧な英文を作ることだけが英語教育の目標ではないが、もう少し自然に正しい英文を作れるようになる方法はないものかと探っていくうちに、**Intake Reading** という方法に出会った。これは **grammar** (文法、語法) ではなく、**grammaticality** (文法性) を最終目標としている。現行の高等学校学習指導要領には「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」とある。生徒たちが表現したいことをできるだけ自由に表現するための訓練としてこの活動の有効性を確かめたいと思った。

2 研究仮説

Intake Reading を帯活動として継続すれば、生徒の書く英文が、より正確になるであろう。

3 研究方法

3.1 先行研究

3.1.1 良いインプットとは

良いアウトプットのためには良いインプットが欠かせないということは多くの人が感じるところであろう。では、良いインプットとはどのようなものだろうか。佐野、長崎 (2011) は「インプットを確実に取り込み、アウトプットにつなげるためには、学習者は耳や目から入ってくる言語データを理解できるものに変えて取り込む必要がある。」と述べている。つまり、ただわけのわからない外国語を聞いたり読んだりするのではなく、理解できるまとまりとして消化す

るということである。

3.1.2 インプットの種類

佐野, 長崎(2011)によると, インプットには肯定的証拠(positive evidence) と否定的証拠(negative evidence) がある。肯定的証拠とは自然で生の英語, 否定的証拠とはいわゆる誤用である。

誤りの訂正(明示的フィードバック)や, 誤りを正しい形にして言い直すりキャスト(recast)(暗示的フィードバック)をすることによって, 学習者は間違いに気づきやすく, 自ら訂正して言語習得を進めることができる。したがって, 教室で第二言語や外国語を学ぶ場合は, 肯定証拠のみならず, 否定的証拠も得ることができ, これが教育のもつ大きな力となって目標言語が大きく発達する。

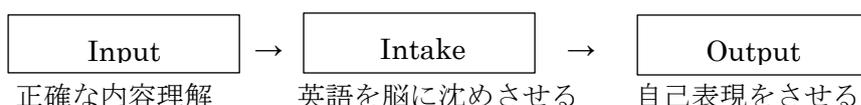
また, 高島(2011)は「時間的に制約され, 英語による十分なインタラクションもフィードバックも難しい場合が多い日本の英語学習環境では, 暗示的な方法ではなく, 明示的な方法を探るべきである。また, 明示的な文法指導を受けてきた日本の英語学習者には, メタ言語的知識を与えることが「気づき」を促すために最も効率的かつ効果的である。」と述べている。メタ言語とは, いわゆる文法的な説明である。高島(2011)によると, 正答を与えて文法的な説明(メタ言語)を加える方法と正答を与えないで文法的な説明を与える方法を比べると, 正答と文法説明を一緒に与えた方が目標構文の習得を促進できる。そして正答を与えて文法的な説明を与える方法とリキャスト(暗示的フィードバック)を比べた場合も, 正答と文法説明を一緒に与えた方が有効であると述べている。

以上のことから, 日本の英語学習者にとって良質なインプットとは「肯定的証拠のみならず否定的証拠も得ること」「フィードバックが明示的であること」「正答と共にメタ言語的知識を与えること」と考えられる。また, 本研究においては, 後述する活動の中で教員による明示的な説明ではなく, 生徒同士によるフィードバックでお互いの気づきを促進できるよう努めることをここで触れておきたい。

3.1.3 インテイクとは

齋藤(2011)は Intake を「英語を脳に沈めさせる」こととし, 「インプットやアウトプットに比べて今まで一番なされていない分野」だと指摘している。そして「あやふやな英文しか書けない生徒では, Output のところで意味不明の英文を乱発する」ことになると述べている。英語を脳に沈めさせるとは, 英文の丸暗記とは違い, 英文には「必ず主語があり, 動詞がある」「単数・複数を意識する」といった文法的ルールを説明ではなく訓練によって定着させることだと私は考える。そしてこれはまさに今, 私が生徒に身に付けて欲しいことと一致している。そこで, 彼の提唱する Intake Reading を実施し, 実施前と後で, 生徒の Output がどう変化するかを検証しようと思う。

図1 (齋藤, 2011 より)



3.2 授業実践

3.2.1 Intake Reading

齋藤(2011)は Intake Reading を行う前にやっておくこととして、次の2項目を挙げている。

Intake Reading を行う範囲を

- (1) 声に出して読むことができること
- (2) 意味、内容を理解していること

これができたら、早速 Intake Reading を行う。ペアを作り、片方の生徒が教科書を見ながら、最初の一文を読む。もう片方の生徒は何も見ないでそれを正しく復唱する。間違えたら、教科書を見ている生徒は”No”と言い、もう一度同じ文を読む。長くて難しければ、区切って短くしてもよいが、冠詞や前置詞等、細かい部分までもきちんと復唱しなければならない。この過程で教科書を読む生徒は相手が間違えることで、「否定的証拠」を得、復唱する生徒は ”no” と言ってもらうことで「明示的なフィードバック」を得る。

例) 生徒 A : In the past, India was a British colony.

生徒 B : In the past, India was British colony.

生徒 A : No. In the past, India was a British colony.

生徒 B : Ah, OK. In the past, India was a British colony.

3.2.2 ショートテスト

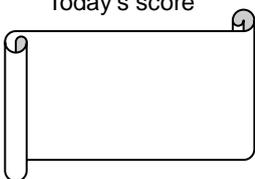
(1) ショートテストの方法

日本語訳を教員が読み上げ、生徒はそれを英語に直して書く。

(例) 柔道は日本で始まった最も人気のあるスポーツの一つである。

→ Judo is one of the most popular sports that began in Japan.

図2 ショートテスト用紙

Intake Reading Short Test	
先生が読み上げる日本語を英語で書きなさい。	
<hr/> <hr/> <hr/>	
No mistake→10 points	Today's score 
1 語間違い→5 points	
2 語間違い→1 points	
2-() No.() Name ()	

(2) なぜ dictation ではなく、和文英訳なのか

齋藤(2011)は「Intake reading のショートテストは、日本語から英文に到達する知的活動を絶えず生徒に強いることになる。そのプロセスがあって、生徒が正確な英文を書き始めることになる。」と述べている。つまり、dictation では言われたことを書いているだけなので、日本語と英語の文の間にある高い壁を乗り越えるというプロセスがないということである。

(3) ショートテストのメリット

①テストがあるとわかっているならば、Intake Reading の練習に真剣になる。知的プレッシャ

一がかかる。また、間違えたときには自分自身で、(例えば時制の誤り等)「メタ言語的知識」を意識することができる。もちろん自分でなぜ間違いなのかがわからない場合は、パートナーや教員に質問することによって「メタ言語的知識」が与えられる。

②Intake Reading が早く終わったペアが、時間を無駄にせず、ショートテストに向けてスペルも含めた練習をすることができる。

(4) 採点方法

2人1組でテスト用紙を交換し、相互に採点する。

(5) 採点基準

完全にできたら10点、間違い1か所で5点、2か所以上で1点とする。

予備実験では間違い0で10点、間違い1か所で9点、2か所で8点、3か所で7点、4か所以上で0点としたが、生徒から「もう10点を目指すのは諦めた。」という声が聞こえてきたため、本実験ではぜひパーフェクトを目指して欲しいと思い、上記のように設定した。なお、齋藤(2011)は1つでも間違いがあったら0点とする方法を推奨している。

(6) 記録

ショートテストの点数は図2のように積算表に記入していく。分母が満点の積算、分子が得点の積算である。例えば4月13日が10点、14日が5点だった場合、13日の下には10/10と書き、14日の下には15/20と書くわけである。この記録は平常点の一部になることを生徒に周知し、1週間を目安にリセットしてまた0から始める。最初は不調だった生徒にも逆転のチャンスを与えるためである。

図3 ショートテスト積算表(記入例)

No. () Name()					
ショートテスト積算表					
期日	4/13	4/14	4/15	4/16	計
今回の点数	10	5	10	1	
積算	10/10	15/20	25/30	26/40	26/40
欠席 = 「欠」、公欠 = 「公」、出席停止 = 「停」と記録すること					

3.3 検証方法

3.3.1 事前事後課題英作文

実際に生徒が書く英作文において、量と質、誤用の種類を確認し、事前、事後で比較する。英作文のtopicは事前課題 "My Favorite Food", 事後課題 "My Favorite Sport" とし、制限時間は10分とする。

3.3.2 事前事後アンケート

授業実践前後に生徒にアンケートを取り、自分で作る英文についてどの程度自信があるか、どのような印象を持っているかを調査する。

4 研究計画

段 階	第 1 段階	第 2 段階
研究の 内容と 方 法	平成 27 年 1 月～平成 27 年 3 月 ①先行研究, 指導実践についての情報収集 ②効果的な実践方法や評価方法の考察 ③コミュニケーション英語の指導法, 評価 法を研究	平成 27 年 4 月～11 月 ①事前検証テストとアンケート ②Intake Reading に重点をおいた授業実践 ③事後検証テストとアンケート ④効果の検証 ⑤改善点と提案
使 用 教 材	コミュニケーション英語 I LANDMARK I	総合英語 II WORLD TREK II

5 研究実践

5.1 Intake Reading とショートテスト

「声に出して読める」「内容を理解している」という 2 点を満たすため, 2 年次生の 4 月から始めたこの実験には 1 年次の教科書 1 パート分(2 ページ)と 2 年次の教科書の 2 パート分(2 ページ)を使用することにした。齊藤(2011)は「教科書を食いつくせ」という表現を用いているが, その説明として「文構造のレベルにおいても, その内容の知的レベルにおいても, 教科書の英文ほど生徒にとってのモデルとして適しているものはない」と述べている。本来なら長期間継続して同じ教材の最初から最後までを使用すべきところだが, 時間的な制約もあり, 一文ずつの長さにあまりばらつきがなく, 生徒の読みやすい個所を選んだ。

期間は平成 27 年 4 月から 7 月までの 3 か月間, 全 31 回行った。活動に慣れる時間を取るため, 第 1 回目はペアワークのみでテストは行わず, 第 2 回目からショートテストを実施した。

5.2 英作文

また, 第 14 回目からはショートテストの後に, 復唱した文型や語句を用いて英作文を試みた。これは, 読んだものを **personalize**, つまり自分のものにする作業である。これによって「言いたいことが言える」ようになる手助けができるのではないかと考えた。

以下は, Intake Reading に使用した教科書の文と, 英作文に用いた文型や語句である。

表 1

	使用した教科書の文	英作文に用いた文型や語句
14	After I became a professional player, however, one of my teammates lent me a book. It changed my life.	After S+V, S+V.
15	The book said, “Find out what is missing in your life. Look for new challenges. Then you will come to see your life in a new way.”	Do ~. Then ~ will~.
16	I started to wonder, “What is missing in my life? What can be improved?”	I wondered, “What ~?”
17	I felt I needed to learn about other things besides soccer.	I felt S+V.
18	I read a lot of books, traveled to different countries, and started to study foreign languages.	I (did) ~, ~, and ~.

くように、目安は 50 語以上であると述べた。40 人のうち、どちらの回も欠席せずにデータが有効に取れたのは 37 人であった。

表 2-1

	4 月	7 月	増減
語数全体平均 (語)	57.8	77.1	+19.2
50 語未満 (人)	13	2	-11
80 語以上 (人)	6	17	+11

表 2-2

語数変化	人数
10 語以上増加 (人)	26
±10 語以内 (人)	7
10 語以上減少 (人)	4

全体的には語数が 3 か月で伸びていることがわかる。なかでも 10 語以上の増加が 26 人と目立っており、最も伸びた生徒は 50 語から 103 語へと、53 語増であった。逆に 10 語以上減少した生徒は 4 人いたが、減少したと言っても、そのうち 3 人は 84→65, 131→93, 134→100 という変化であり、比較的上位層の生徒が第 1 回目にかなり多く書き、2 回目にはそこまで届かなかったというのが実情であろうかと思う。もう 1 人の生徒の作文 (66→48) にはスポーツが好きではないという記述が全文を通して見られたので、興味・関心の低さが語数変化に影響したと思える。したがって、ほとんどの生徒が、多くの文を短時間で書けるようになったといっって差し支えないだろう。

6.1.2 内容

(1) 誤用の種類と数

語数は全体的に伸びているが、内容はどうか。全体としてはあまり大きく変わったという印象はない。誤用の数だけで言うと、文章が長くなった分、増えた印象がある。そこで、どんな誤用が増えたり減ったりしているのかを分類し、集計した。ただし何の間違いかということがはっきりしないものが多数見受けられるので、これはあくまで筆者の主観による分類であることを申し添えておく。

誤用の種類と例

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 大文字・小文字の間違い | I was very sad and <u>Then</u> ... |
| 2. スペリングの間違い | Each of them are <u>diffrent</u> . |
| 3. 単数・複数 | I like <u>chocolates</u> very much. |
| 4. 動詞等の形 | It <u>give</u> me a lot of energy. |
| 5. 冠詞の使い方 | I want to be baseball <u>player</u> . |
| 6. because 節の独立 | My favorite food is ramen. <u>Because</u> it is very dericious. |
| 7. 時制 | I belong to baseball club, I <u>practiced</u> baseball every day. |
| 8. 品詞 | I like sweet food and <u>drinking</u> . |
| 9. 前置詞の間違い, 脱落 | This food is used <u>various</u> dish. |
| 10. 語彙 | When I go to summer festival, I eat sausage <u>absolutely</u> . |
| 11. 日本語使用 | Sometime, I go to <u>kaitenzushi</u> with my family.
(ramen noodles 等, 補足のあるものは除外する) |
| 12. 日本語による干渉 | In <u>rest time</u> , we played it. |
| 13. 関係詞 | I like miso soup <u>what</u> my mother cooks. |
| 14. 受動態・能動態 | Oranges <u>can remake</u> to so many kind of thing. |
| 15. 現在分詞と過去分詞 | I'm <u>interesting</u> it. |

16. be 動詞の脱落・挿入	When I playing baseball, ...
17. 動詞, to 不定詞の脱落	When I into this high school,...
18. 主語の間違い, 脱落	When I eat chocolate I feel happy and <u>make me smile</u> .
19. 目的語の脱落	My favorite sport is basketball because I have played for five years.
20. その他	I could win the competition <u>little by little</u> .

表3は、以上の分類により、事前・事後課題英作文の誤用を分類、集計したものである。この結果から次のことが言えよう。

- ① 単数形・複数形に関する誤用が減少した。
- ② 冠詞に関する誤用が増加した。
- ③ 日本語使用が減少した。ただし、これは4月の My Favorite Food において、和食等をローマ字表記し、それについて説明を加えなかった生徒が多かったためと考えられる。これに対して7月においてはスポーツをトピックとしたため、日本語使用が少なかった。
- ④ 関係詞に関する誤用が減少した。

表3 事前事後課題英作文における誤用数集計表(対象 37 人)

	誤用の種類	4月合計	7月合計	増減
1	大文字・小文字	22	26	4
2	スペリング	35	59	24
3	単数・複数	62	38	-24
4	動詞等の形	25	28	3
5	冠詞	27	87	60
6	because 節の独立	7	5	-2
7	時制	7	20	13
8	品詞	7	2	-5
9	前置詞	20	16	-4
10	語彙	28	47	19
11	日本語使用	22	1	-21
12	日本語による干渉	6	13	7
13	関係詞	9	1	-8
14	受動態・能動態	3	1	-2
15	現在分詞と過去分詞	1	9	8
16	be 動詞の脱落・挿入	7	7	0
17	動詞, to 不定詞の脱落	1	11	10
18	主語の間違い, 脱落	6	13	7
19	目的語の脱落	3	7	4
20	その他	30	28	-2

筆者としては項目 16 から 18 の誤用が有意に減少することを期待したが、それほど差は見

られなかった。17の動詞の脱落についてはむしろ増えていると言ってよいだろう。

(2) 個別比較

表4は比較的变化の大きかった3人の生徒の事前事後課題英作文全文である。表記, 改行等, 生徒の書いた通りである。

表4 事前事後課題英作文

	4月 My Favorite Food	7月 My Favorite Sport
生徒A	<p>The best my favorite food is.... I can't chose one thing. I think the food that when I want to eat, I eat is the best! It's the best delicious! For example, I like sweets, but when I eat one too much, I think "I don't want to eat anymore. If I eat, I want to eat salty food." So my favorite food is the thing that when I eat, I want to eat, I want to eat cake, so my favorite food is cake now. (86 words)</p>	<p>My favorite sport to play is tennis! I like soft tennis because I was in tennis club when I was a junior high school student. I can play tennis well than other sports. And also I can enjoy playing tennis. And then I like Kei Nishikori. I think he is the best tennis player of Japan. Have you ever watched his game? He never give up and run in the court. I hope to watch his game in Wimbledon by my eyes someday.</p> <p>Other my (85 words)</p>
生徒B	<p>My favorite food is ramen. Because it is very delicious and not expensive. I ate ramen five times in a month with my friends. There are many ramen shops near the school. In the each shops we are enjoy (32 words)</p>	<p>I'm going to write about "My favorite sport". My favorite sport is basketball. I like playing and watching basketball. I have two reasons. First, we can get many points in the game. Because there are just 5 people in the game. So only 5 people can play basketball in the game. Second playing and watching basketball is very excited. So, we can enjoy without boring. So, Basketball is very exciting sport. I think basketball is the most exciting sport all of the world! (83 words)</p>
生徒C	<p>will, talk about my favorite food. My favorite food is Onigiri, rice-ball. Onigiri has many レパートル because I like it Simple one ~ Special things, I'm interesting it. I like to eating Onigiri made by myself, but more I like that I bought convenience store, Onigiri This is very very delicious, You know. Every schoolday, I am eating that bought Onigiri. (61 words)</p>	<p>I'm going to write about my favorite sport. My favorite sport is swimming. When I was elementary school student, I was swimmer, joined swimming club in summer. I started it I was child maybe 3 years old. My favorite and best foam was the breaststroke and the crawl. 50m the crawl my best score is 43 second, 50m the breaststroke was 58 second I remember. When I was 6 grade I got gold medal at summer swim conference. That's all. I like swimming now. (84 words)</p>

生徒Aは語数変化がほとんど見られないが、4月の段階ではほとんど意味内容が伝わらない。どうやら「食べたい時に食べたいものを食べるのが一番おいしい」と言いたいようである。これに対して7月の文章は少なくとも何が言いたいのかが理解できる。ただしスペルミスは4月よりむしろ増えている。

生徒Bは語数が32語→83語と大幅に伸び、4月は述べたいことがすべて書けなかったのに対し、7月は主張が2つ述べられ、完結している。この生徒においては書くスピードが上がった、つまり書き言葉における fluency が向上したと言えるだろう。

生徒Cの4月の作文を見ると、なんと最初の文に主語がない。また、カタカナや「～」という記号を使い、英語の文章としてはわかりづらい。しかし、7月の文章を見ると、冠詞や前置詞といった機能語の間違いやスペルミスは多いものの、なんとか意味のわかる文章になっている。

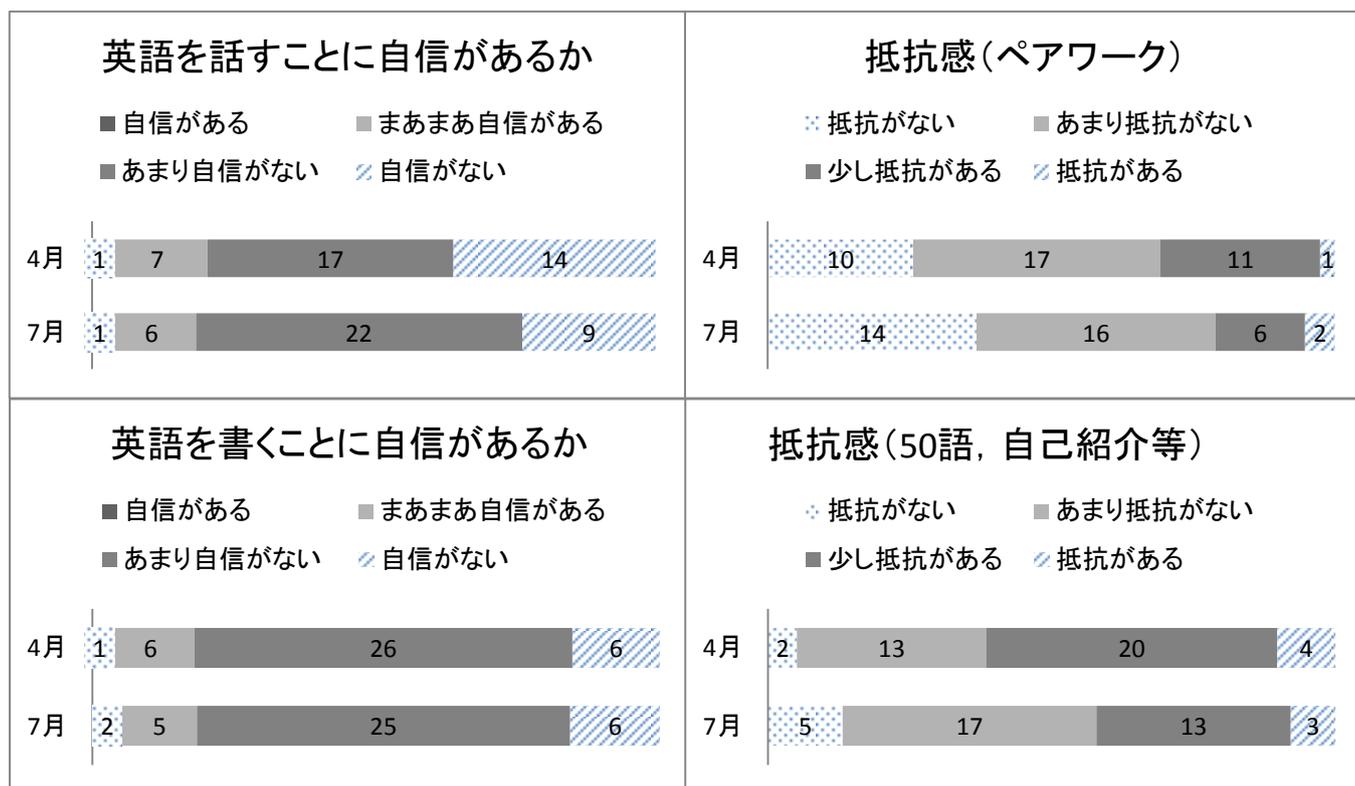
このように、生徒によっては表現したいことが多少なりとも表現できるようになってきたと言って良いだろう。

6.2 意識調査

4月に事前アンケートを行い、英語を話すこと、書くことへの自信の有無、気を付ける要素（意味内容、発音、文法など）を尋ねた。7月には事後アンケートを行い、事前アンケートで尋ねた項目のほかに、Intake Reading を3か月間やってみての感想や、意識の持ち方の変化について尋ねた。

まず、話すこと、書くことへの自信の有無については、大きな変化が見られなかった。話すことに「自信がない」が5人減って「あまり自信がない」が5人増加しているくらいである。ただし、ペアワークや短い自己紹介文を書くことなど、比較的易しいタスクについては抵抗感を持たない生徒が若干増加している。

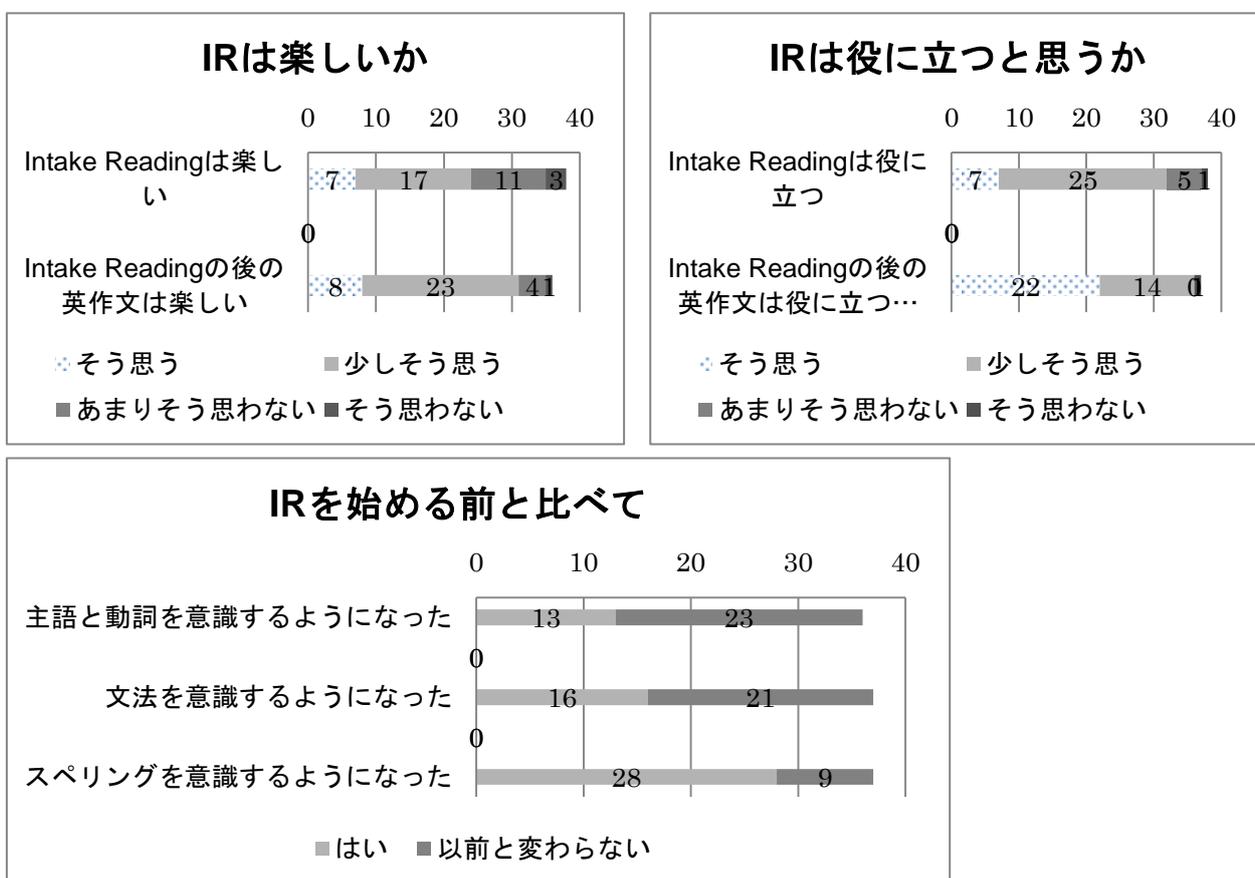
図4 事前事後アンケート比較（アウトプットに対する自信、抵抗感）



しかしながら、Intake Reading とその後の英作文への感想は比較的好意的な意見が多かった。特に英作文については「楽しいか」という問いに対し、36人中31人が「そう思う」「少しそう思う」と答え、「すごく考えるから楽しい」「こういう風に使うんだ～とわかる」「いろんな人の英作文をきけておもしろい」などとコメントしている。また、ほとんどの生徒が英作文を「役に立つ」と評価した。もちろん少数意見としては「苦手」「できない」のように難しいという感想を持った生徒もいたし、逆に「あまり頭を使ってない（もう少し難しい方がいい）」という意見もあった。

Intake Reading の活動（ペアワークとショートテスト）に限れば、「楽しいと思うか」という質問に対し、「そう思う」「少しそう思う」が半数を超えたものの、自由記述では「体にしみつく」「覚えられるくらいの長さで満点だとうれしい」「お互い覚え合おうと頑張れる」「単語や文法を覚えられる」「普通」「特になし」「難しい」「面倒」「あまり意味がないと思う」等、意見が分かれた。

図5 事後アンケート（Intake Reading に対する感想）



6.3 結論

Intake Reading を帯活動として継続することにより、生徒はより多くの文を短時間で書けるようになるが、必ずしも正確さが増すとはいえない。ただし、書く力において下位層の生徒の一部には、一定の効果が見られるようである。

6.4 考察

Intake Reading は比較的単純な activity なので、帯活動として取り入れやすかった。しかし、生徒の書く文章についてはある程度よくなったと思える者と、あまり差を感じられない者がおり、もう少し時間をかけて、検証する必要があるように思えた。しかしながら、プレテ

スト時にかなり理解しにくい文章を書いた生徒については、少なくとも「何が言いたいのかが伝わる」段階にたどり着けたのではないかと思う。

Intake Reading の後に行なった英作文については **personalization** (=個人向け仕様にする事)、つまり本人の使いたい文脈で文型や語彙を使ってみることの大切さを確認した。多くの生徒がこの **activity** を「役に立つ」と感じ、「この文型(あるいは語彙)を使ってこんな風に自分の言いたいことが言えるんだ」という達成感を持てたという印象を受けた。自分の言いたいことが英語で言える(書ける)喜びを日々実感することが言語学習の意欲を増すための重要な要素だと言えよう。

6.5 今後の課題

Intake Reading という活動を始めようと思ったきっかけは、「普通科の生徒がより自信を持って表現できるようになるにはどんな訓練をしたら良いか」と考えたことであった。しかし実際の実験では担当科目の事情により国際教養科の生徒を対象とした。彼らは普通科に比べると英語への意欲があり、少人数の授業が多く、TT も多く受けてきた。Intake Reading はそういった恵まれた環境に置かれていない生徒にも取り入れやすい活動だと思われる。また、3か月間では大きな変化は見られなかったが、半年、1年と長く続けて検証する必要があるだろう。

本研究は Intake Reading を取り入れることにより、生徒の書く英文が正確になるという仮説を立てたが、さらに Personalization という手法を取り入れた作文練習を行うと質の高い英文を作成することができると期待できるので、今後研究を続けていきたい。

引用文献

- 齋藤榮二 (2011) 『生徒の間違いを減らす英語指導法 インテイク・リーディングのすすめ』三省堂
- 佐野富士子・長崎睦子 (2011) 「インプット」 大学英語教育学会(監修)『英語教育学大系 第5巻 第二言語習得—SLA 研究と外国語教育』第7章 教室での言語習得 第1節 大修館書店
- 高島英幸 (2011) 「インタラクション」 大学英語教育学会(監修)『英語教育学大系 第5巻 第二言語習得—SLA 研究と外国語教育』第7章 教室での言語習得 第2節 大修館書店
- 『広辞苑 第六版』(2008) 岩波書店
- 『高等学校学習指導要領』 (2009) 文部科学省

参考文献

- British Council for LEEP (2014) LEEP High School Teacher Training Cascade